

震災30年特別企画
兵庫県立大学政策科学研究所シンポジウム

震災記憶の継承と

地域社会

— 持続可能社会におけるレジリエンス —

30年を 震災30年を 未来につなぐ

挨拶

竹田 統
一般財団法人住吉学園 理事長

工藤 健一
神戸市東灘区長

パネリスト ※登壇者は都合により変更になる場合がございます。

小菅 康生
神戸市教育委員会事務局学校教育部部长

松本 宣子
住吉歴史資料館 事業推進委員

内田 雅夫
住吉歴史資料館 事業推進委員・学芸員

馬場 美智子
兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科教授

討論者

和田 真理子
兵庫県立大学大学院 社会科学部研究科准教授

パネルディスカッション参加

甲南女子大学文学部
津田ゼミナール

2024年

12月14日 [土]

御影公会堂 白鶴ホール

14:00-17:00 (予定) (開場 13:30)

会場 150名 / オンライン 300名 参加無料

主催 兵庫県立大学政策科学研究所

共催 東灘区役所、関西学院大学産業研究所、住吉歴史資料館

後援 一般財団法人住吉学園、甲南女子大学

お問い合わせ：兵庫県立大学政策科学研究所 〒651-2197 神戸市西区学園西町8-2-1 ☎(078)794-5302 FAX (078)794-6218 ✉ipshyogo@gmail.com

Designed by Misaki.T



開催趣旨

神戸市東灘区は、阪神・淡路大震災の被害が最も甚大であり、高速道路高架の倒壊が記憶に残ります。震災発生当初は、行政としての組織的活動に限界があり、危機的な状況は地域住民との連携を通じて克服されていきました。ところが阪神・淡路大震災後には人口流動化が生じて、地域住民の大幅な入れ替わりが生じました。そのため旧住民と新住民の関係構築を進め、災害対策にも機能する新しい地域住民の結びつきが必要となっています。

震災から30年が経過し、震災体験のない世代や外国人住民の増加が進む一方で、被災体験者から生の声を聞く機会も減りつつあります。東日本大震災や令和6年能登半島地震が象徴するように、日本では災害の偶発的発生は避けられません。震災30年を好機として、震災記憶の継承と地域住民の結びつきについて、皆様と一緒に考えたいと思います。

事前登録

登録フォームより登録（任意）

※ リマインドメールを差し上げます。

※ 申込締切：2024年12月13日（金）



登録はこちら

<https://forms.gle/Gb1zJm9jfSzdo34Z8>

アクセス

御影公会堂 白鶴ホール

〒658-0045 神戸市東灘区御影石町4丁目4番1号

■ 阪神電鉄

石屋川駅より北へ徒歩5分

御影駅より徒歩10分（国道2号線と石屋川の東北角）

御影駅より市バス16・36系統「御影公会堂前」下車

■ 阪急神戸線

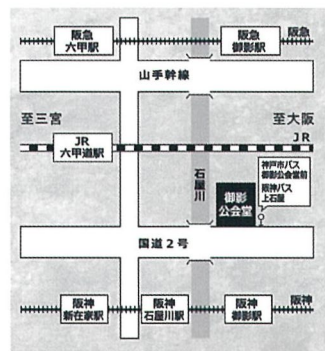
六甲駅より市バス16・36系統「御影公会堂前」下車

■ JR神戸線

住吉駅より阪神バス「上石屋」下車

六甲道駅より徒歩15分

六甲道駅より市バス16・36系統「御影公会堂前」下車



※ 駐車スペースを準備できませんので、お車でのお越しはご遠慮ください。

お問い合わせ：〒651-2197 神戸市西区学園西町8-2-1 兵庫県立大学政策科学研究所

☎ (078) 794-5302 FAX (078) 794-6218 ✉ ipshyogo@gmail.com

